

平成 27 年度のジャパンリンクセンター運営実績

2016 年 3 月 11 日

ジャパンリンクセンター事務局

1. 委員会、分科会、メンバーミーティングの主宰、招集、事務¹⁾

(1) ジャパンリンクセンター運営委員会

ジャパンリンクセンター運営委員会を四半期毎に、合計 4 回開催した。また、その議事要旨をジャパンリンクセンターの web サイトで公表した²⁾。

(2) 分科会

表 1 に掲げる分科会を設置し、委員会の審議を円滑に進めるため、同表に掲げる項目について審議を行った。

表 1. 平成 27 年度の分科会構成

分科会	審議項目
システム技術分科会	(開催せず)
対象コンテンツの拡大検討分科会	(開催せず) ³⁾
普及分科会	<ul style="list-style-type: none">▶ DOI アウトリーチミーティングの IDF へのプログラム提案▶ DOI アウトリーチミーティングの広報方策

2. サービスの開発、運用および管理⁴⁾

(1) サービスの開発

次の新規開発を行った。

表 2. 平成 27 年度の新規開発項目

	開発項目	内容
1	引用リンク付与機能の改善 (平成 27 年 10 月)	<ul style="list-style-type: none">▶ DOI をキーとして該当する文献を JaLC や Crossref から取得する機能を追加
2	ファンド情報・ORCID iD 対応 (平成 27 年 11 月)	<ul style="list-style-type: none">▶ ファンド情報を Crossref に送付する機能を追加▶ ORCID iD を Crossref・PubMed に送付 (機能は平成 26 年度に開発済。平成 27 年 12 月に初めて ORCID iD の正常登録を確認)

¹⁾ ジャパンリンクセンター運営規則第2条2項4号

²⁾ ジャパンリンクセンターweb サイト 「JaLC について」 > 「JaLC 運営委員会」
(https://japanlinkcenter.org/top/about/index.html#about_committee)

³⁾ 「研究データへの DOI 登録実験プロジェクト」にて検討を進めていたため、実施はしなかった。

⁴⁾ ジャパンリンクセンター運営規則第2条2項2号

(2) 運用

システム運用、ユーザサポート業務は、過年度に引き続き外部に委託して実施した。また、システムの安定稼働を目指し、2014年12月にリリースした新システムの最適化を図った。

3. DOI 登録機関業務⁵⁾

過年度に引き続き、正会員および準会員の入会対応を行った。その結果、会員数、DOI登録件数は、表3のとおりとなった。

表3. 会員数および DOI 登録件数の推移

	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
正会員数 (機関)	6	16	21	26
準会員数 (機関)	289	898	944	1,078
DOI 登録件数 (万件)	181	216	302	316

- ・正会員、準会員とも堅調な伸びを示している。正会員は公的研究機関、医学系の学会、民間出版社など多彩な機関で構成されており、また準会員は J-STAGE 参加学協会や、大学機関リポジトリ等から構成されている。
- ・各会員による DOI 登録が着実に進んでいる。平成 27 年度の大口の登録例としては、NII の準会員である各大学の機関リポジトリに登録された論文等約 2 万件、医学中央雑誌刊行会の準会員である医学系出版社の論文プラットフォーム、Medical Finder に掲載された論文等約 40 万件への DOI 登録があった。このように、平成 27 年度は代表取り纏め機関（準会員を擁する正会員）による大口の登録が顕著であった。アグリゲータと協働して DOI 登録を拡大していくことも有力な方法であることが分かった。
- ・JST が発行する「情報管理」誌について、これまで Crossref DOI を登録してきたが、2015 年 9 月から JaLC DOI に変更するとともに、過去分の約 6,000 記事についても、JaLC に DOI を移管した。これにより、JaLC DOI を登録する会員のメリットを享受できるようになった。例えば、デポジットエラー対応などを迅速に行うことができるようになったり、DOI レゾリューションに係るアクセスログの収集も可能となり、詳細な利用動向を追うことが可能となったりした。

4. その他、JaLC の運営に関する一切の事務⁶⁾

(1) 「研究データへの DOI 登録実験プロジェクト」

2014 年 10 月から 2015 年 9 月までの一年間、「研究データへの DOI 登録実験プロジェクト」を実施した。参加機関は公募により募集し、14 の機関から 9 プロジェクトが参加した。

⁵⁾ ジャパンリンクセンター運営規則第2条2項1号

⁶⁾ ジャパンリンクセンター運営規則第2条2項5号

多様な研究分野の事例をもとに、DOI のテスト登録、課題の抽出と検討を行った。2015 年 7 月にはその中間報告会を開催した⁷⁾。また、成果物として「研究データへの DOI 登録ガイドライン」を取り纏め、JaLC の web サイトで公表した⁸⁾。また、当プロジェクトでの検討内容を報告記事として取り纏めた⁹⁾。

(2) DOI Outreach meeting 2015 in Tokyo の開催

DOI outreach meeting は、国際 DOI 財団(International DOI Foundation; IDF) が、DOI (Digital Object Identifier) の普及を目的として、毎年、冬季に、世界各地で、開催しているイベントである。2015 年の DOI outreach meeting は、JaLC のホストにより、12 月 3 日、JST 東京本部で開催した。IDF に対するプログラムの検討にあたっては、普及分科会の協力を得つつ議論を重ねた。この中で、「研究データへの DOI 登録実験プロジェクト」の最終報告も行った。

当日は、日本国内の研究機関、大学図書館、出版社、システムベンダーなどから、100 名を超える参加があった。質疑応答や Tea Break の際には積極的な意見交換やネットワーキングが交わされ、多くの参加者の方々に大変満足いただけた。

また、当ミーティングでの議論を報告記事として取り纏めた¹⁰⁾。

(3) 国際協調

IDF の戦略会議 (DOI strategy meeting) を日本に招致した。IDF のメンバー (諸外国の DOI 登録機関の代表者)にも日本でのコミュニティの様子や取り組み状況を肌で感じ取っていただくことができ、IDF メンバーの中でのジャパンリンクセンター (JaLC) のプレゼンス向上にも寄与した。

また、Crossref, DataCite の年会に参加し、ID 化に係る世界の動向の把握に努めた。このうち、2015 年 9 月に参加した DataCite/ePIC イベントについて報告記事として取り纏めた¹¹⁾。

(4) DOI handbook の邦訳

IDF は DOI handbook¹²⁾ に、DOI 登録に係るポリシー等を取り纏めている。それを邦訳し、IDF の web サイトに掲載してもらった¹³⁾。

⁷⁾ 小林賢. ジャパンリンクセンター 「研究データへの DOI 登録実験プロジェクト」中間報告会. 情報管理. 2015, vol.58, no.6, p. 485-488. doi: 10.1241/johokanri.58.485

⁸⁾ https://doi.org/10.11502/rd_guideline_ja

⁹⁾ 武田 英明, 村山 泰啓, 中島 律子. 研究データへの DOI 登録実験. 情報管理. 2015, vol.58, no.12, p. 763-770. doi: 10.1241/johokanri.58.763

¹⁰⁾ 余頃祐介. 世界における永続的識別子"DOI"の多様な活用状況と ID 化がもたらす未来:2015年 DOIアウトリーチ会議からのオープンサイエンスに向けた示唆. 情報管理. 2016, vol.59, no.1, p. 43-52. doi: 10.1241/johokanri.59.43

¹¹⁾ 中島律子. 集会報告 DataCite/ePIC イベント 永続的識別子: データ集約型研究に向けたサービスを実現する. 情報管理. 2015, vol.58, no.10, p. 791-793. doi: 10.1241/johokanri.58.791

¹²⁾ DOI Handbook. doi: 10.1000/182

¹³⁾ DOI Handbook (日本語版) . doi: 10.11502/DOI_Handbook

(5) JaLC DOI 登録会員に対する登録 DOI 数・レゾリューション数の提供開始

DOI RA は、月次で CNRI から DOI レゾリューション数のデータを受領している。それらのデータを整理し、会員毎に登録 DOI 数と合わせて、提供することを開始した。

— 以 上 —